

ここが違う！二藤部クラスの特長

1 一方的に「聴く」講義ではなく「考える」講義

聴くだけの講義では脳へのすりこみが弱く、知識の定着が薄いと考えています。私の講義では、いわゆるアクティブラーニングを目指していきます。義務教育にも導入することが決められている方法です。アクティブラーニングは、「主体的、対話的で深い学習」とも呼ばれ、端的にいえば、能動的に学習に取り組むということの意味しています。授業を聞くだけでなく、自分で考え積極的に講義に参加し、学習効果を上げられるようにします。私の講義は、講義中に受講生の皆さんにたくさん質問します。質問するといっても、名指しして一人に答えをもらうわけではなく、みんなの安心してください。全体に質問して、一人ひとりで自分で考え、法律を考える力を養いましょう。

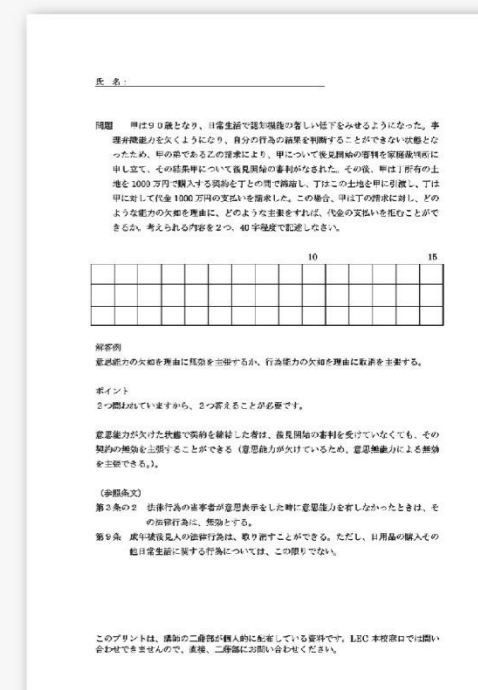
2 実務もこなす講師だからこぞできる！実務のお話

私は平成17年（2005年）に行政書士開業しています。約18年の実務経験があります。私のメインの業務は外国人関連の業務ですが、他にも相続手続きや会社設立、契約書の作成など、いろいろな業務を取り扱ってまいりますから、講義では実務のこともお話できると思います。皆さんが「講義に集中していない」と感じるときは、積極的に実務の話もしていこうと思っていますので、そんなときは実務の話で一息ついてください。また行政書士試験合格後、どのような実務を行うかのイメージを持って学習できれば、学習のモチベーションも上がるでしょう。

3 二藤部講師オリジナル記述問題の宿題

行政書士試験では、40文字程度の法律文章を書かせる記述問題が3問出題されます。1問の満点は20点ですから、300点満点中60点と配点は大きく、記述対策は必須です。しかし、受講生の皆さんが記述対策として自分の書いた答案を誰かに採点してもらう対策をすることができるのは、模試等が始まる夏以降です。そこで、二藤部クラス（水道橋・千葉本校の各）では、民法の講義が一通り終了した時点から、毎週1問ずつのペースで民法の記述問題の課題を出します。それを自宅に持ち帰り、40字程度の記述の答案を書きあげてください。その答案は提出日に提出してください。提出された課題は、回収して私が講評を書き加え得点をつけてお返しします。解説や講評を書き採点していますから、解答はもちろん解説や講評、参照条文を記した答案を配りますので、自分の答案を比べてみてください。記述は択一問題の知識が基礎となります。択一の知識がおぼえられていないと、なかなか記述の解答を出すのは難しいです。二藤部クラスで行う記述の課題を通じ、条文やテキストを再確認し、記述対策をしていきましょう。

※通学形態（水道橋・千葉本校）でお申込みの方限定の特典となります。



二藤部クラス合格者からのメッセージ（2022年合格目標パーフェクトコース受講）

二藤部先生の授業は御自身や他の行政書士の方の実務上のエピソードを盛り込んだ飽きの来ない活気あるものでした。授業中何度も受講生全員に質問が投げかけられ、一方通行の講義とはならないものでした。授業終了後何度も個人質問させていただきましたが、いつも懇切丁寧に説明していただき、時には、その質問のためだけの解説資料を御自身で作成の上、翌週頂戴したこともありました。また、授業の進め方も通り一辺倒なものではなく、重要項目・難解項目に十分時間をかけたメリハリの利いたものでした。もう一つ大きな特徴として、通常の授業とは別に先生オリジナルの宿題（民法のハイレベルな記述問題が1問）が毎週出され、とても刺激的でした。毎回20点満点もらえるよう何度も解答を検討したことが後々大いに役立ちました。



水道橋・千葉の乗り入れ自由！